

福島高商同窓会東京支部を訪問

旧大分高商と同時期に設立された福島高商（現・福島大学経済学部）の同窓会東京支部を訪問しました。

最近、違う視点から母校の歴史を感じたお話しです。11月7日、福島大学経済学部の同窓会組織・東京支部、「東京信陵会」から連絡が入り意見交換をしました。東京信陵会のみなさんにはこれまでお会いしたことはありませんでしたが、福島大学経済経営学類は私たち大分大学経済学部と同様に前身母体が同じ旧・官立高等商業学校の福島高商です。東京四極会とは同窓会活動も母校所在地から離れた関東地域という共通点があります。加えて創立年月も同時期のため福島大学経済経営学類も我が母校と同様に2022年に創立100周年を迎えます。

改めて旧・高等商業学校の歴史を簡単に振り返ります。日本最初の官立高等商業学校は1887年の東京高商（現、一橋大学）で、1900年代に入り神戸、山口、長崎、小樽、名古屋・・と各地に高商が設立されます。この動きの背景には、当時の国と産業界から商業の実務家の要請があったと言われます。1920年から1924年にかけて官立高商の設立は8校にのぼります。この期間の中で1922年に誕生したのが私たちの母校の前身、大分高商です。奇しくも福島高商も同年同時期に誕生しています。全国で今年からここ数年間、旧・高商系の学部で創立100周年を迎えるところが相次ぐのは以上の背景があります。

歴史は時間と人が織りなしてきたものの積み上げです。各地の高商が現在も形と名称を変えて存在しているのは、歴史をリレーしてきた同窓会の働きが大きかったと改めて思います。伺った福島大学の信陵会も立派な活動を展開されています。100周年の記念行事の準備も私たちと同様に始めておられます。同じ年に誕生した学校の関東地区の同窓会組織

としてエール交換をしてきました。今後、互いの共通する課題の解決方法についても意見交換をしていくことにしています。



（写真）

左から鶴田事務局長（東京四極会）、奥川理事長（同）、鈴木会長（東京信陵会）、市川事務局長（同）